

テーマ

『包括歯科臨床に欠かせない技工士からの視点』

今回の例会は、『包括歯科臨床Ⅱ』出版記念基調講演を始め、歯科臨床に欠かせない技工士からの視点として、3名の技工士が発表致します。Dr.のみならず、日々診療を共にしているDTもお誘い合わせの上、ご参加下さい。

咬合療法研究会関西支部 支部長 任 順興

筒井照子先生
『包括歯科臨床Ⅱ』
出版記念基調講演

9:30 受付

《午前部 発表20分 質疑応答:15分》

10:00~10:35 【新人会員発表】『過去の全顎症例を咬合療法の見地から再考する』 宮地 浩徳 先生 座長:宮田匡人

10:40~11:15 【新人会員発表】『咬合療法のスプリントを初めて使用した症例』 森脇 伸充 先生 座長:延藤秀樹
-10分休憩-

11:25~12:00 【技工士発表】『適した補綴修復を導くために』 DT 法橋 友利恵 先生 座長:任順興

12:05~12:40 【認定技工士発表】『支台歯クリアランスを考慮したプロビジョナルクラウン製作時の注意点』 DT 古家 豊先生
座長:藤田亨

12:40~13:30 - 昼 休憩 -

13:30~15:00 【基調講演】『咬合面形態の製作上のキーポイント』 DT 増田 長次郎 先生
-10分休憩-

15:10~16:40 【基調講演】『「包括歯科臨床Ⅱ 顎口腔機能の診断と回復」についての解説』 筒井 照子 先生

日時

平成27年11月1日(日) 定員:100名

10:00~16:40(受付AM9:30~)

場所:神戸中華会館 東亜ホール

〒650-0011 神戸市中央区下山手通2丁目13番9号

TEL. 078-392-2711

問合せ先 080-3787-1523(延藤)

咬合療法研究会関西支部庶務

会費

会員Dr、DT 5,000円

会員Dr医院の勤務医 4,000円 スタッフ3,000円
(DT含む)

非会員 8,000円

※弁当代込:10月25日までに申し込みの方

申込みは

以下記入後 FAX または メールにて

医院名:

申し込み用紙

電話:

FAX:

携帯:

〒
住所:

mail:

※メール申し込みの場合は連絡先など同様の記載内容をお願いします kougokansai@yahoo.co.jp

咬合療法研究会
関西支部事務局

06-6780-4619

FAX送信

	氏名	フリガナ	職種	会員・非会員
1			院長・勤務医・DH・DT・DA・受付	会員・非会員
2			勤務医・DH・DT・DA・受付	会員・非会員
3			勤務医・DH・DT・DA・受付	会員・非会員
4			勤務医・DH・DT・DA・受付	会員・非会員

参加費は当日、受付にて医院単位でまとめてお願いします。

参加費領収書は当日お渡します。

参加費合計 ￥

【午前セッション】

過去の全顎症例を咬合療法の見地から再考する

卒後、神戸の歯科医院に勤務し、参加した勉強会で咬合療法というものを知った。一歯単位の治療ばかりに目がいき、全顎治療など考えていなかった卒後3年目。全顎的な治療が必要とする患者さんの担当になった。59歳の男性。臼歯部の喪失、残存歯のブラキシズムにより咬合高径が下がった患者さんであった。全顎的な治療の経験はなく、何も分からないまま治療を行った。そのさなか咬合療法を受講できたが、悔しさが残る症例となった。今現在、臨床経験6年目になりその患者さんの2年後予後を知ることができたが、長期維持安定とは程遠い結果となってしまっている。

資料不備、治療計画や治療のすすめ方にも反省点が多い症例であるが、現時点での考察を述べたいと思う。今後も咬合療法を行っていく上で御指導、御鞭撻頂ければ幸いである。

【座長】宮田匡人

宮地 浩徳

Miyaji Hironori

2010年 大阪歯科大学卒業
2011年 ゆら歯科クリニック勤務
2013年 吉竹歯科医院 勤務

咬合療法のスプリントを初めて使用した症例

『 開業5周年の今年、2月からの神戸咬合療法コースを受講して“Stomatology”に出会い、臨床での不安や迷い、曖昧だった原因がほとんど“Dentistry”に偏っていた為だった、と自分の中で答えが出た気がしています。

本日は、コース初回受講の週に初診で来院され咬合再構成を行うことになったケースを、「現状に至った原因の追究」と「診断」にフォーカスして発表させていただきます。まだ習ったばかりで“覚えて”と言うのもおこがましい初心者の方の段階ですので、ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。』

【座長】延藤秀樹

森脇 伸充

Moriwaki Nobumitsu

2003年 九州大学歯学部卒業
医療法人 立山歯科勤務
2005年 医療法人 弘奉会
たけだ歯科医院勤務
2010年 もりわきデンタルクリニック開設

適した補綴修復を導くために ～技工士からのなぜ？を考える～

日々の臨床において起こるエラーには、チェアサイドとラボサイドとの不一致が原因で起こる場合もあります。

審美修復を行う上で起こる不一致のうち「シェードの不一致」「形態、カントウアの不一致」「エマーゼンシープロファイルの不一致」の3点に焦点をおき、なぜ起こるのか？そしてその対策とは？について技工工程を通して考えていきます。

【座長】任 順興

法橋 友利恵

Hokkyo Yurie

1993年 新大阪歯科技工士専門学校 卒業
1994年 新大阪歯科技工士専門学校 専攻科 卒業
和田精密株式会社 勤務
医療法人 健志会 ミナミ歯科クリニック 勤務
1998年 SJCDテクニシャンコース 修了
2003年 フジモト デンタル テクニカル 研修修了
伊藤歯科医院 勤務
2005年 青嶋ゼミ ベイシックコース 修了
2008年 青嶋ゼミ アドバンスコース 修了
ウカイ歯科クリニック 勤務
2012年 KAZUMA Style 修了
2014年 デンタル テクニカル ウェグ 開業

支台歯クリアランスを考慮したプロビジョナルクラウン製作時の注意点

プロビジョナルクラウンを治療に用いる目的の一つには最適な下顎位の模索があると思います。スムーズに治療を進めるには、その中でも、全身・頭蓋に対して咬合平面を設定し、機能的な咬合面を付与することが重要だと考えています。

今回の発表では歯科技工士の立場から、様々な口腔内環境に対して、最終補綴物製作時の材質や強度設計など視野にいれて、日常臨床でプロビジョナルクラウン製作時に注意している点などをお伝えできればと思います。

【座長】藤田 亨

古家 豊

Furuie Yutaka

1993年 新大阪歯科技工士専門学校卒業
生田歯科勤務
1997年 大阪セラミックトレーニングセンター卒業
(株)カロス 入社
2000年 F.Daftary D.D.S 2年間勤務
現在 (株)カロス勤務

【午後セッション】

「機能的咬合面形態の製作上のキーポイント」

The occlusal form from as the occlusal reconstruction

咬合治療の3本柱、下顎位・歯列・咬合面形態。筒井照子先生の本が出版され、更にそれぞれが整理され紐付けされたと感じている。それらを、診療者サイドが関連性を持たせながら治療にあたらなければならない。

生活習慣、リラックスした筋肉位の模索、咬合平面、歯列の大きさ・連続性、適切な彎曲、咬合面形態が整備されてリモデリングを繰り返しながら適正な下顎位に到達し、そして維持・安定させていく。パラファンクションは咬合崩壊の過程を紐解いていく大きなヒントであり、また一つでも多くを見つけることが咬合治療への道だと考える。

そこで歯科技工士に求められる分野としての、咀嚼運動から観た歯列(咬合平面)と咬合面形態について、言葉にしてしまうと難しいと感じるかも知れない。しかし、正常像を理解することで異常な部分を排除することと捉えれば、正常像を再構築すれば・近づければ、と考えれば見えてくるものも多いのではない。

今回の例会では、AFM咬合器やキャリパスの説明を加えながら、咬合再構成のために何が正常で何が異常なのかキーポイントを挙げながら説明していく。

増田長次郎

Masuda chojiro

- 1982年 大阪歯科学院専門学校卒業
- 1986年 大阪セラミックトレーニングセンター卒業
- 1986年 ナショナルセラミック
デンタルラボラトリー入社(ロサンゼルス)
- 1989年 STUDIO PROF. BRACCHETTI
勤務(ミラノ)
- 1994年 KALOS DENTAL ITALIA S.R.L.
開業(ミラノ)
(有)カロス デンタル ジャパン開業
(姫路)・現 (株)カロス
KIP(カロスインプラント補綴)
トレーニングセンター開設
- 2007年 KPC(カタナプロダクションセンター)開業
- 2011年 (株)カロス京都開業

『包括歯科臨床Ⅱ 顎口腔機能の診断と回復』についての解説

私の45年の力のコントロールについての臨床のまとめです。

今は「もう一歩」とも思いますが、限られた時間の中で精一杯だった気がします。読み方、真意など解説をしたいと思えます。

ご質問や分からない所がありましたらお受けします。

本を購入された方は持ってこられるといいでしょう。

筒井 照子

tsutsui Teruko

- 1970年 福岡県立九州歯科大学卒業
同大学矯正学教室入局、75年退局
- 1975年 9月北九州市八幡西区折尾にて筒井歯科、
矯正歯科医院を夫・昌秀と開業
- 1980年 九州歯科大学矯正学教室にて歯学博士号を取得
- 2001年～ 昭和大学歯学部矯正学教室兼任講師
- 1990年～ 日本矯正歯科学会認定医
- 2008年～ 日本矯正歯科学会専門医
- 1988年～ 筒井塾を主宰
- 1991年～ JACDを主宰
- 2003年～ 咬合療法研究会を主宰
- 2012年～ 日本包括歯科臨床学会 顧問
- 2014年～ 九州歯科大学 非常勤講師

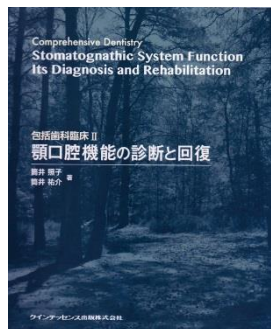
【所属学会・研究会】

- ・日本矯正歯科学会 ・九州矯正学会 ・日本口蓋裂学会
- ・日本顎咬合学会 ・日本包括歯科臨床学会 ・咬合療法研究会
- ・JACD

【著書】

(クインテッセンス出版)

- ・包括歯科臨床 ・DVD 包括歯科臨床 ・DVDジャーナル1～3
 - ・態癖—力のコントロール(医歯薬出版株式会社)
 - ・からだ・顔・バランスケア—お口の健康を保つために—
 - ・「包括歯科臨床Ⅱ 顎口腔機能の診断と回復」出版
- 他論文 100編を越える



新刊

Comprehensive Dentistry
Stomatognathic System Function
Its Diagnosis and Rehabilitation
包括歯科臨床Ⅱ
顎口腔機能の診断と回復

著：筒井 照子、筒井 祐介

臨床写真点数
4,000超

- スーパーワイド判(248×307mm)
- 456ページフルカラー
- 本体 42,000円(税別)
- モリタ商品コード:805682